



Promise of Performance™

2024年3月期
第2四半期 決算説明会

企業価値向上に向けた 取り組み

株式会社 牧野フライス製作所

2023年10月31日



1. 現状分析

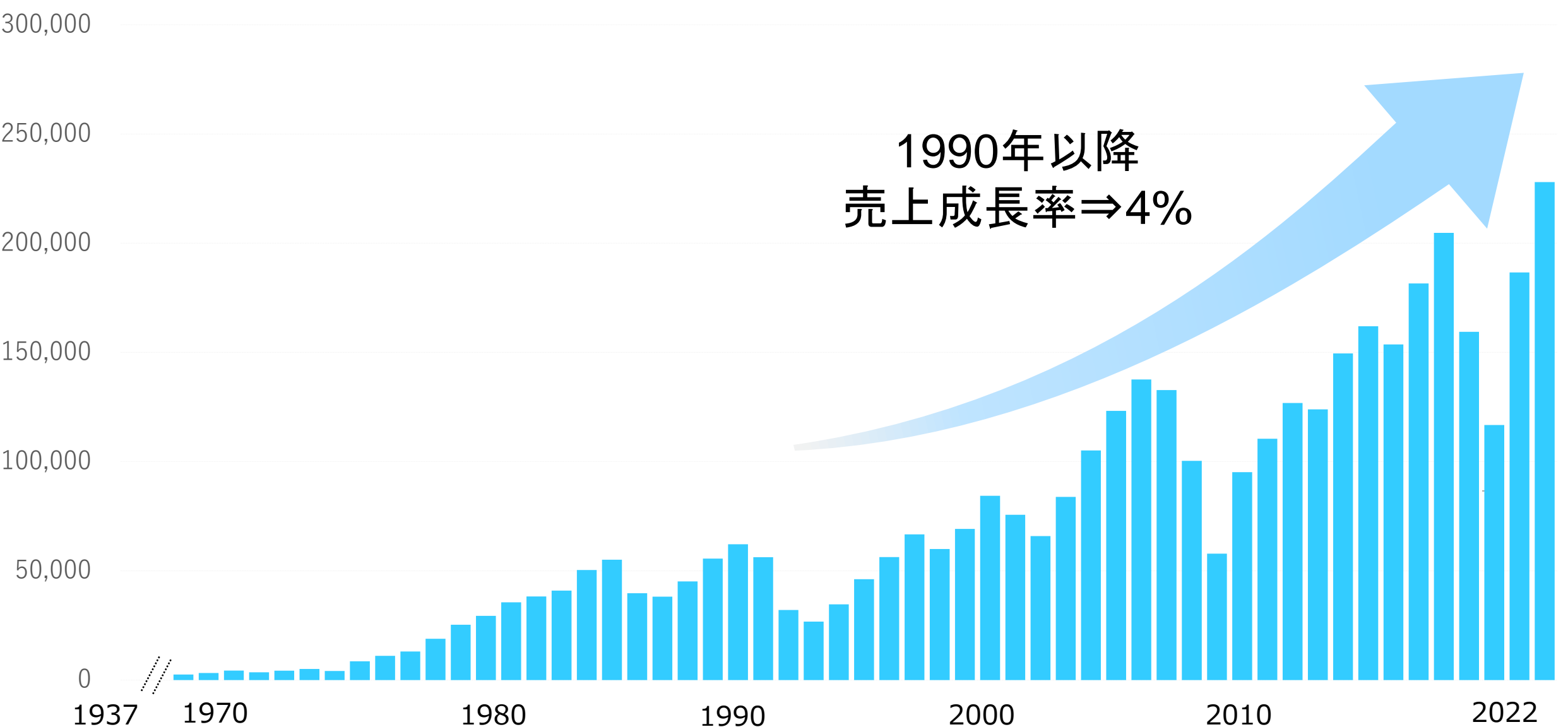
2. 取り組みと数値目標

3. サステナビリティ

売上高の推移



(単位:百万円)



売上高と営業利益



売上高/営業利益

売上高 営業利益 営業利益率

2,500 / 250億円

12.0%

2,000 / 200億円

9.0%

1,500 / 150億円

6.0%

1,000 / 100億円

3.0%

500 / 50億円

0.0%

- / 0億円

-3.0%

- / △50億円

-6.0%

FY13

FY14

FY15

FY16

FY17

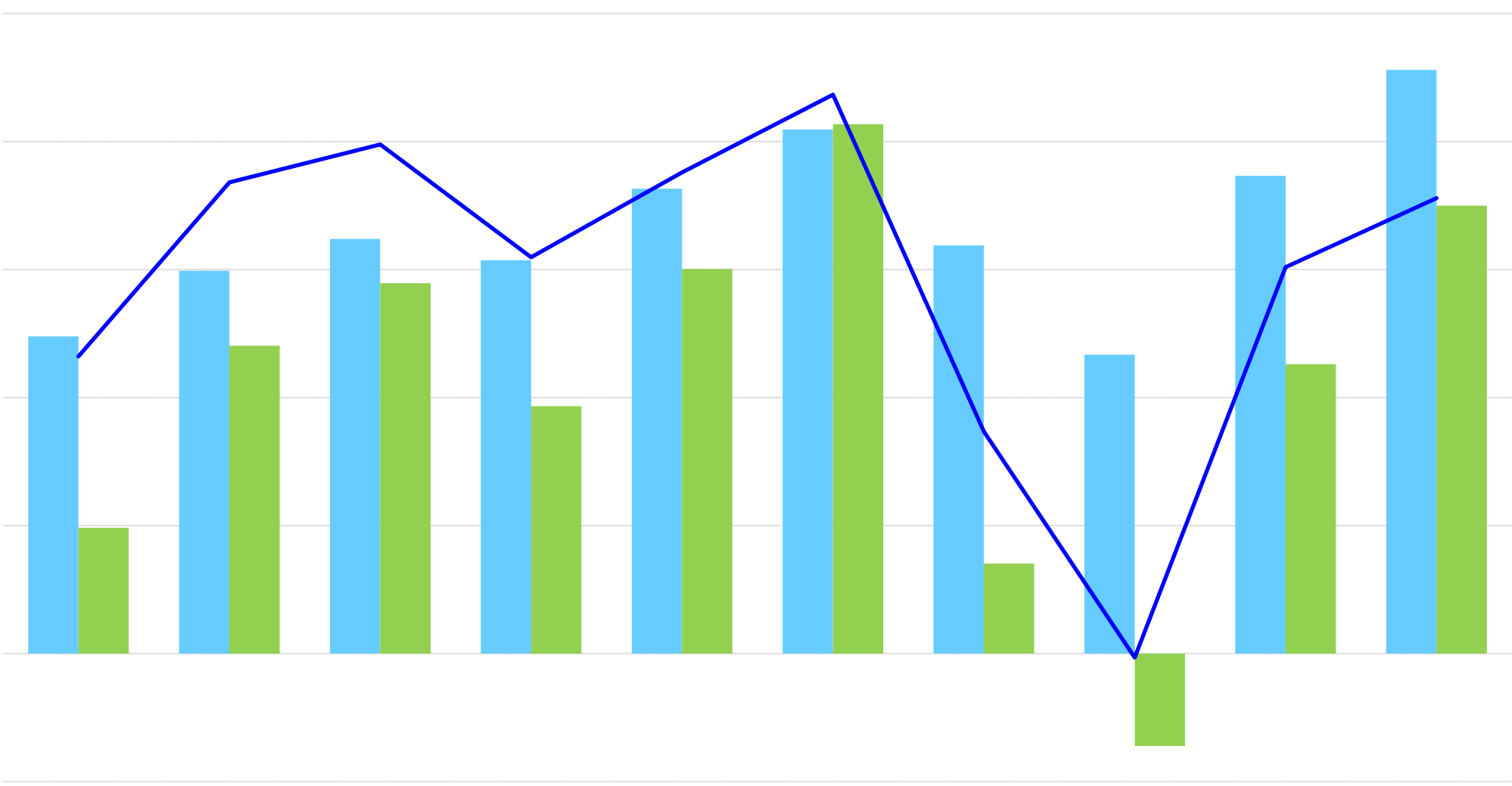
FY18

FY19

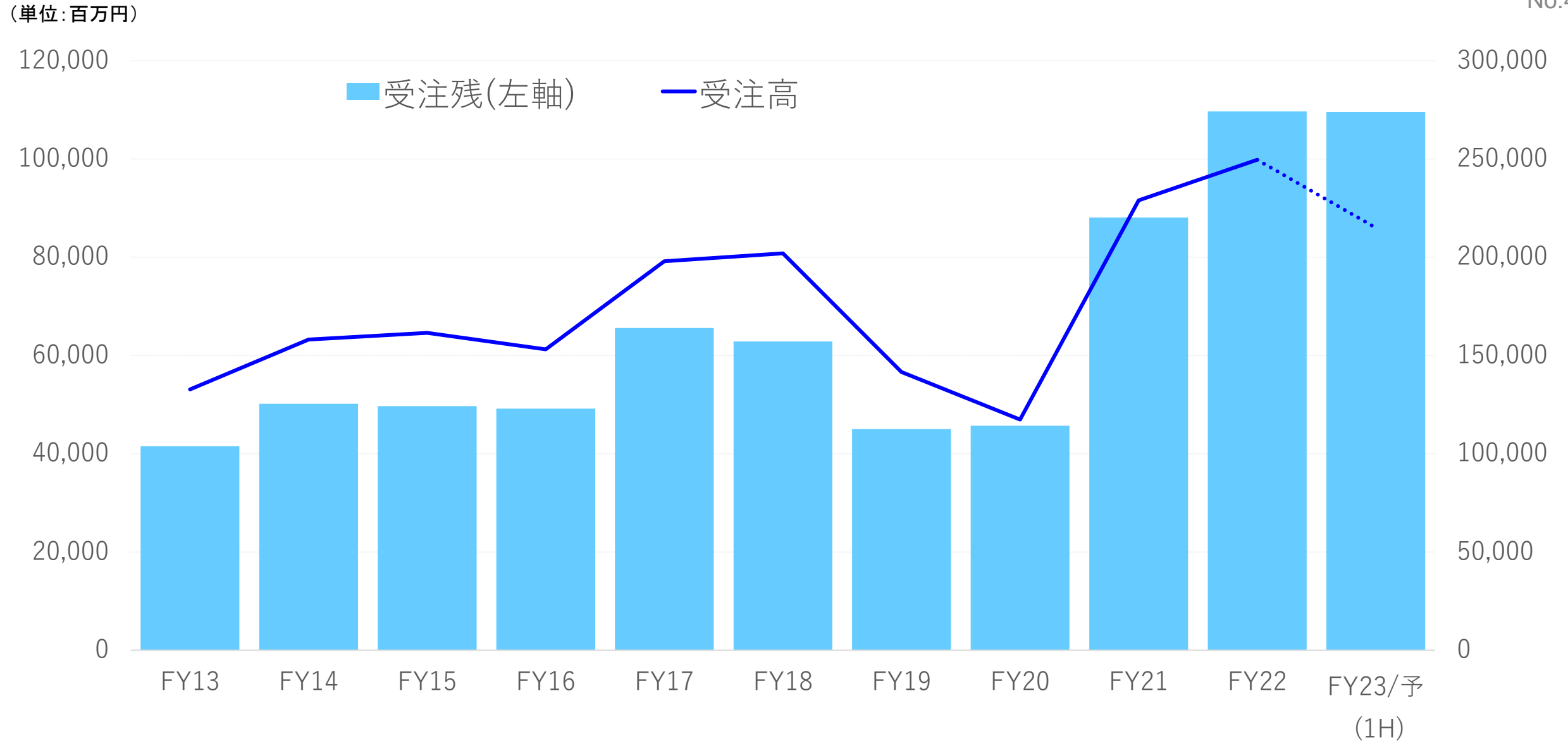
FY20

FY21

FY22



受注残と受注額

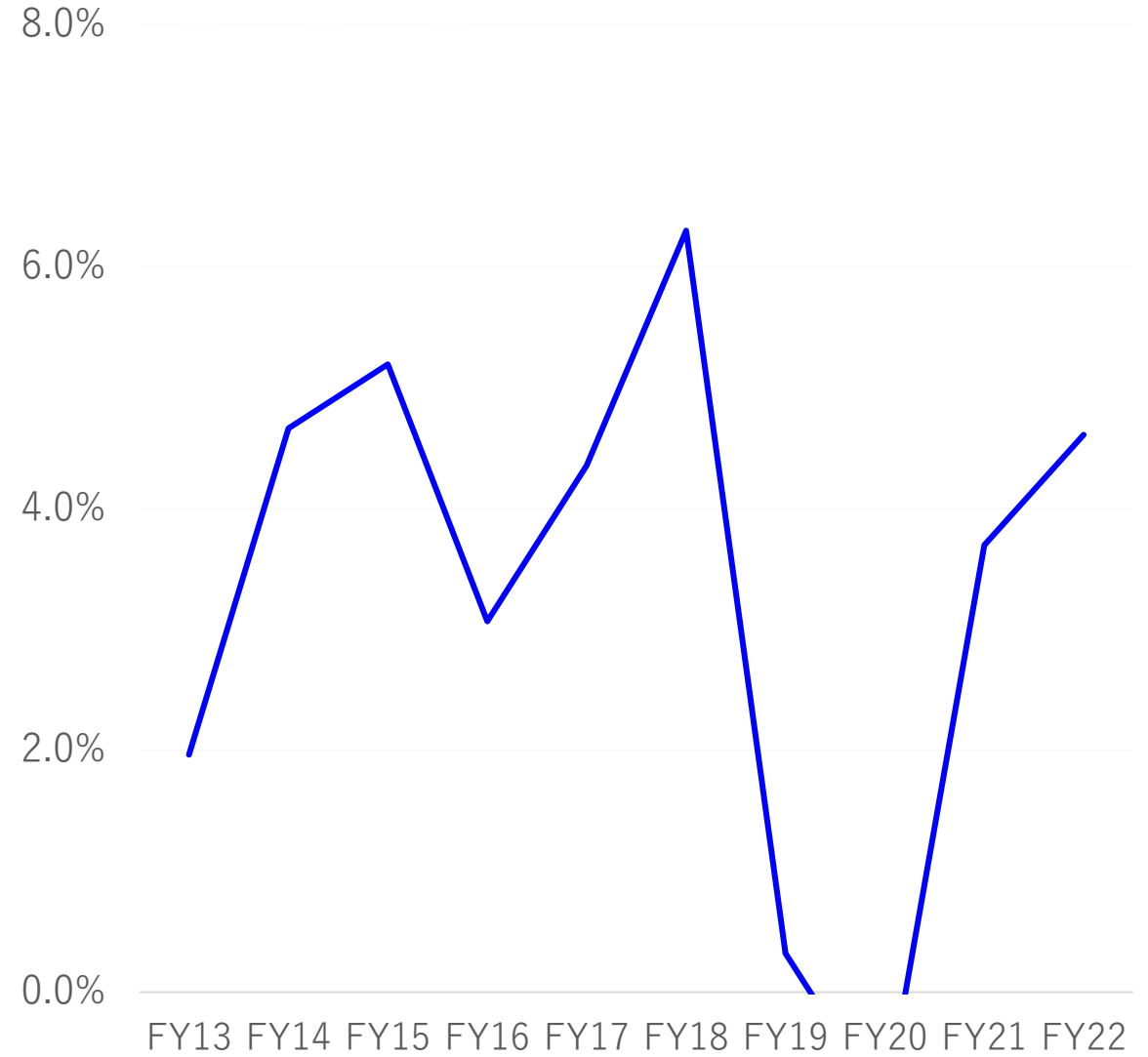
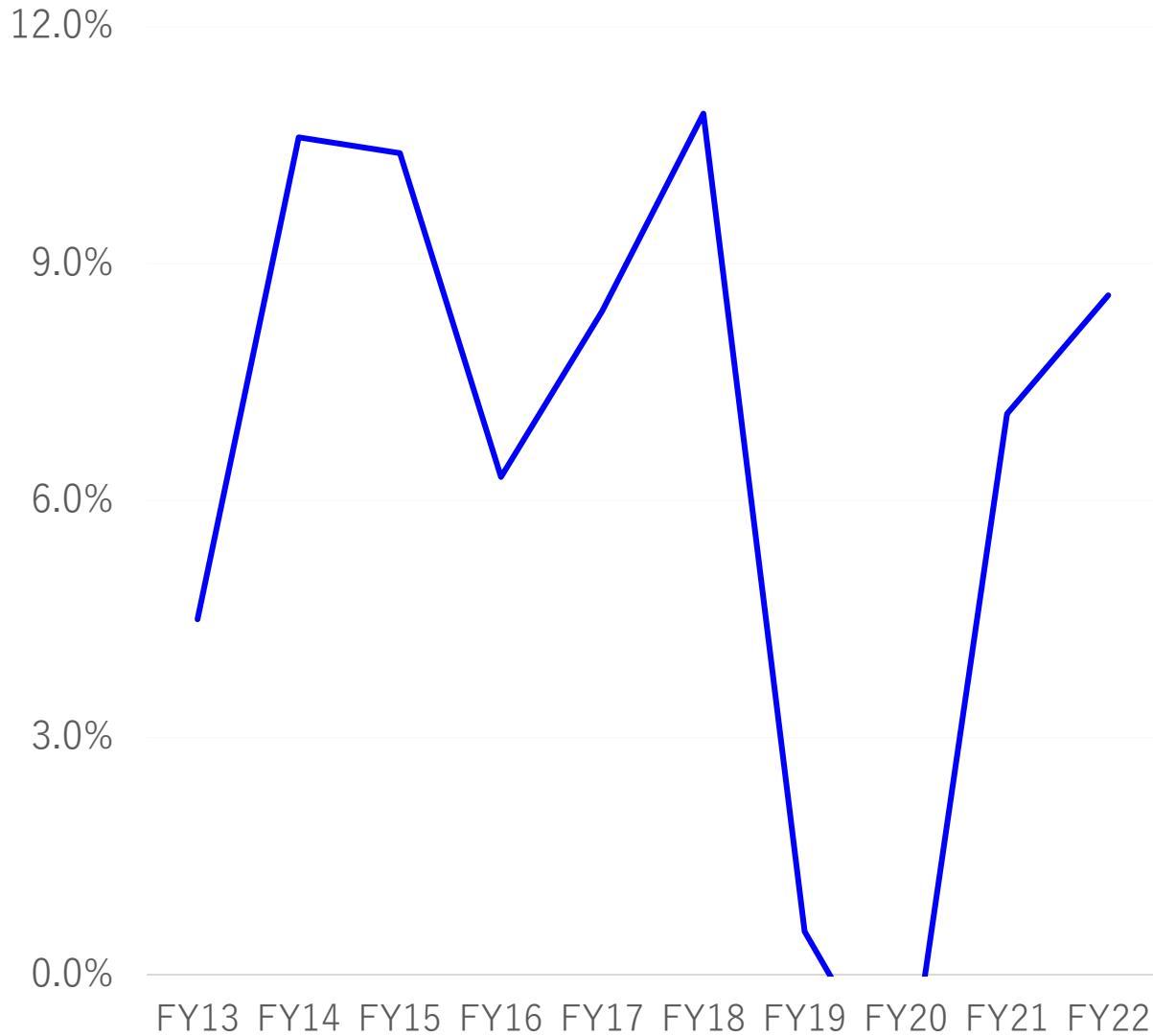


* FY23の受注高は10月末時点の予想、受注残は23年9月末の実績値となります



ROE

ROA





「収益性の向上」

- ◎ 生産性の向上
- ◎ 積極的な合理化投資
- ◎ 特徴ある製品の市場投入

「充実した株主還元」

- ◎ 安定的な配当
- ◎ 機動的な株主還元

「資産効率の向上」

- ◎ リードタイムの短縮
- ◎ 資産回転率の改善
- ◎ 投資有価証券の縮減

「サステナビリティの拡充」

- ◎ ガバナンスの強化
- ◎ 人的資本投資の充実
- ◎ 気候変動問題への対応



1. 現状分析

2. 取り組みと数値目標

3. サステナビリティ

各地域の課題、ニーズに応じた施策を計画・実施

アジア

- 現地生産の拡大
- 製品開発（ローカライズ）
- 新興成長エリアへの拠点展開

アメリカ

- 販売・サービス体制の構築
- エンジニアリングの強化
- 中南米での販売強化

ヨーロッパ

- 販売・サービス体制の構築
- エンジニアリングの強化
- 部品・消耗品販売の拡大

日本

- 生産性向上
- 需要の変化に対応できる生産体制
- 製品開発（多軸化・大型化）
- サプライヤーとの協働



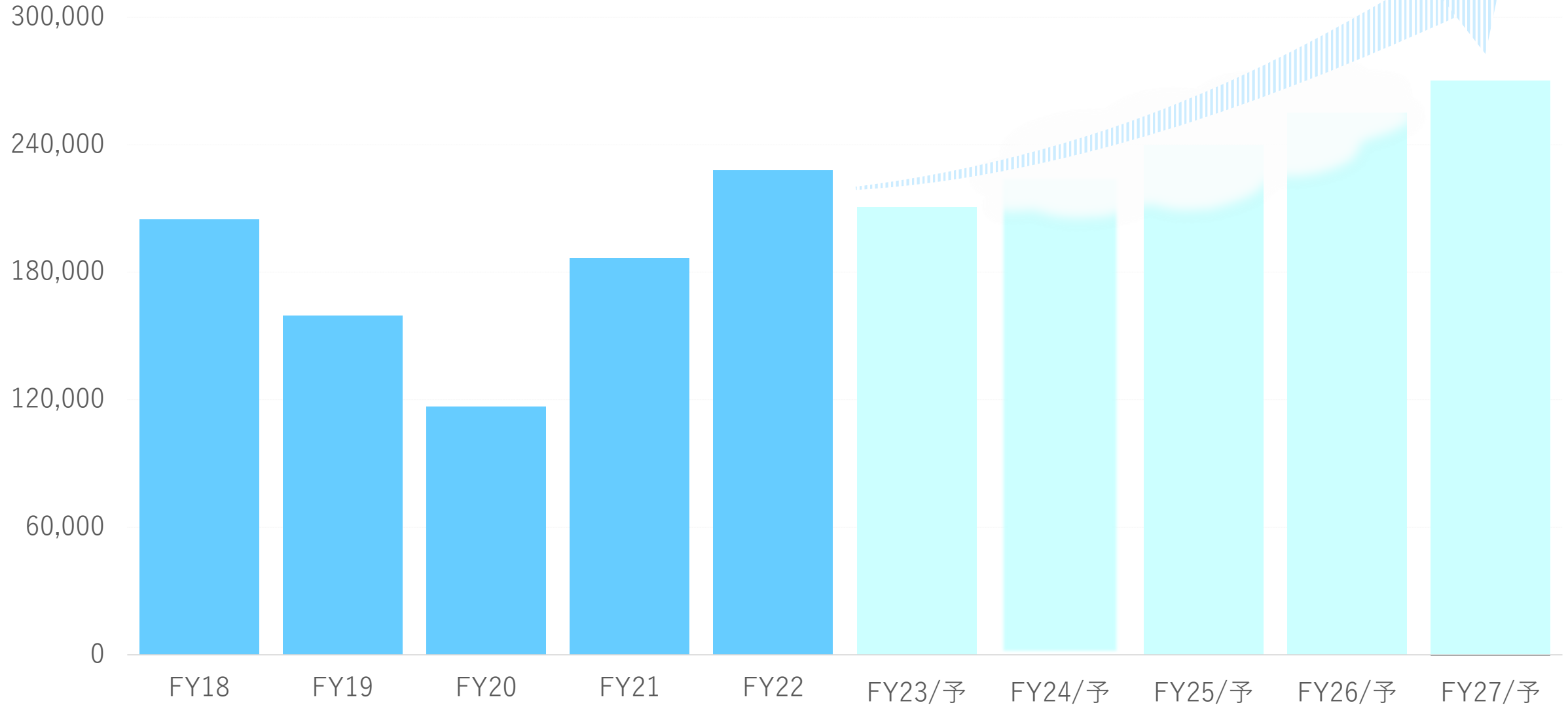
売上高

2023/10/31



No.9

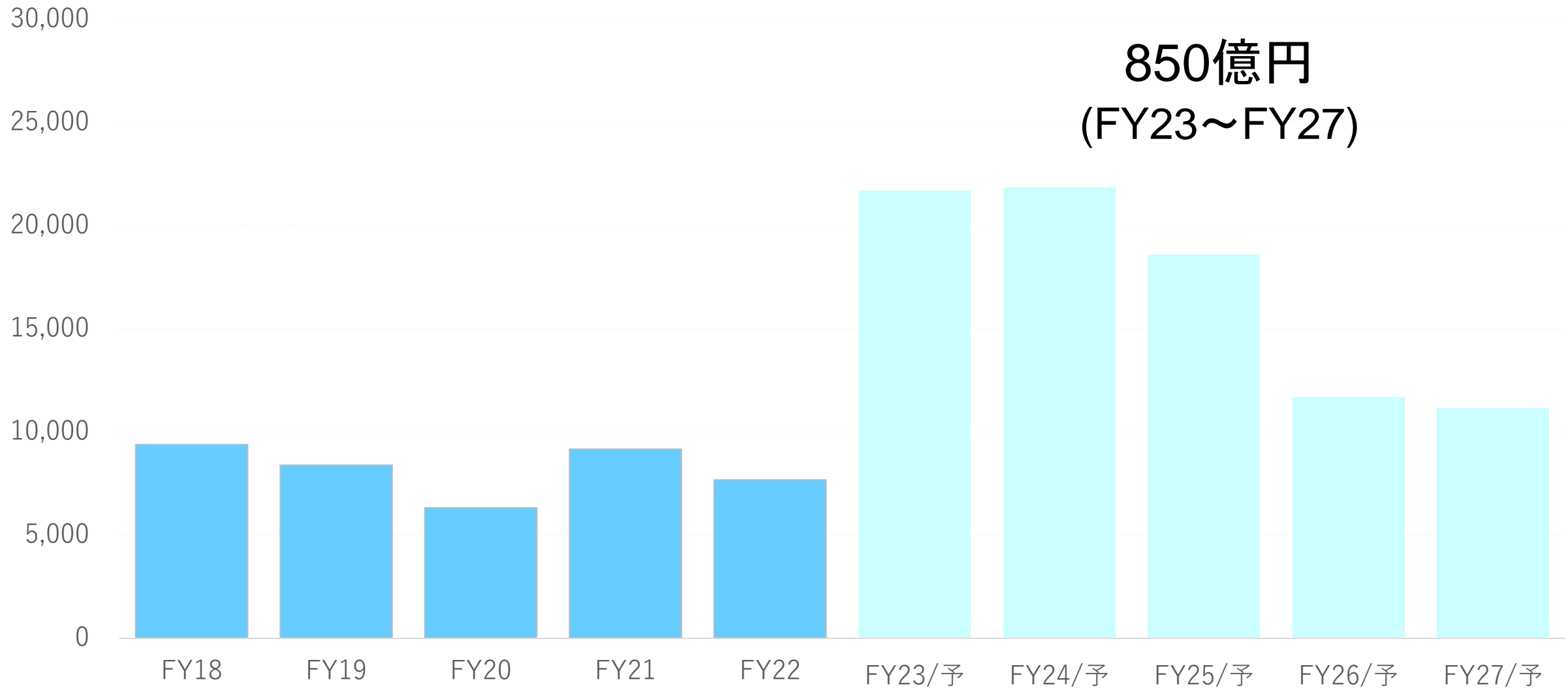
(単位:百万円)



設備投資

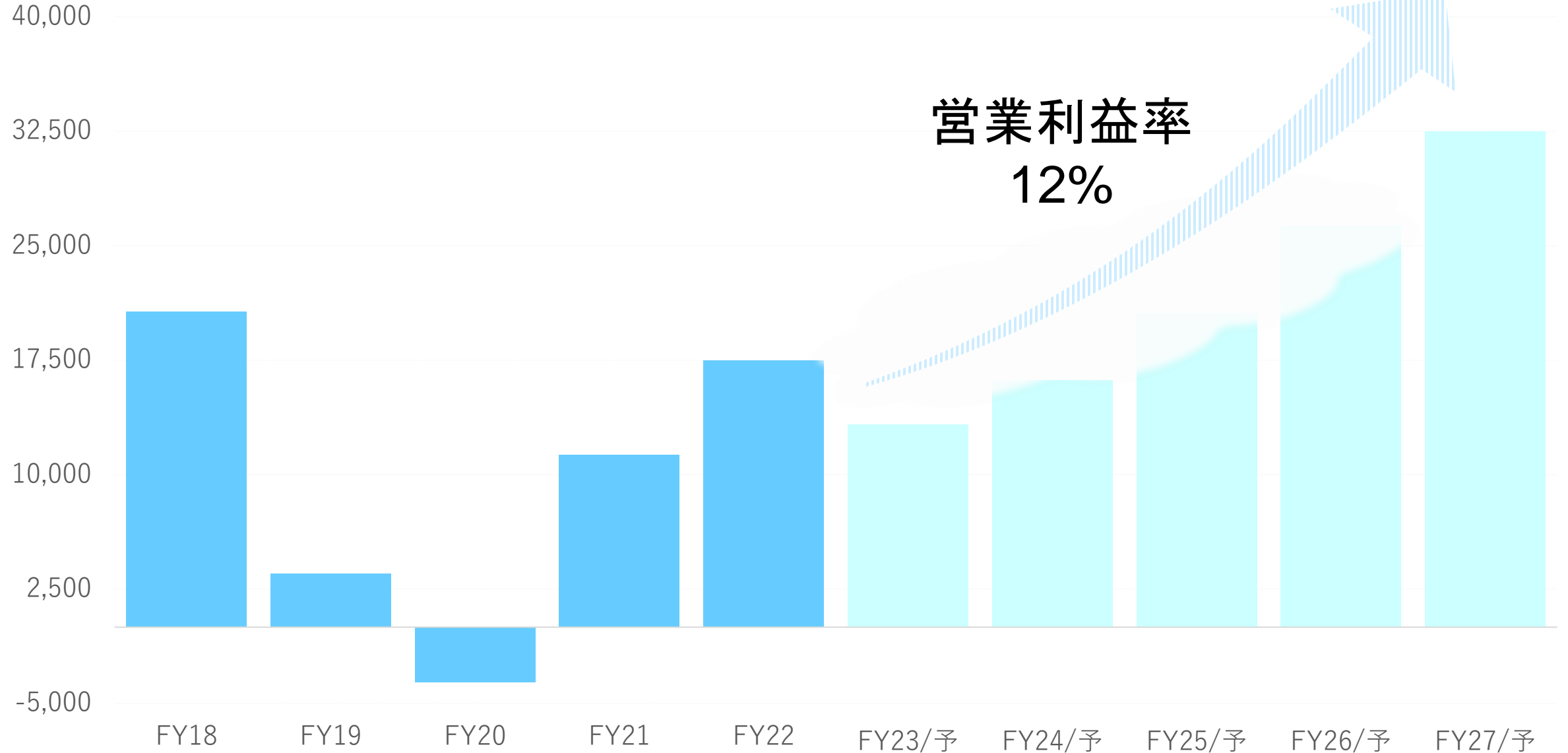


(単位:百万円)



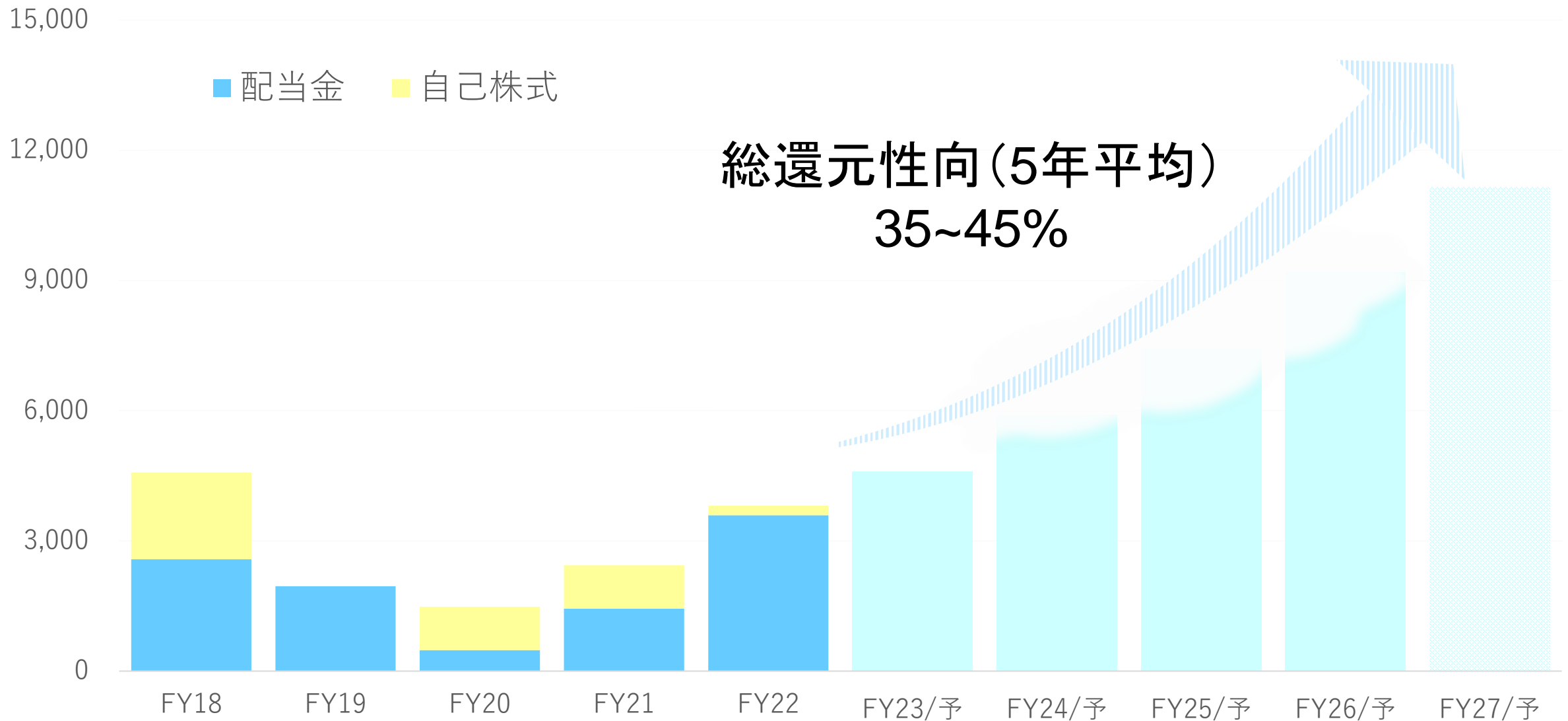
営業利益

(単位:百万円)



株主還元

(単位:百万円)

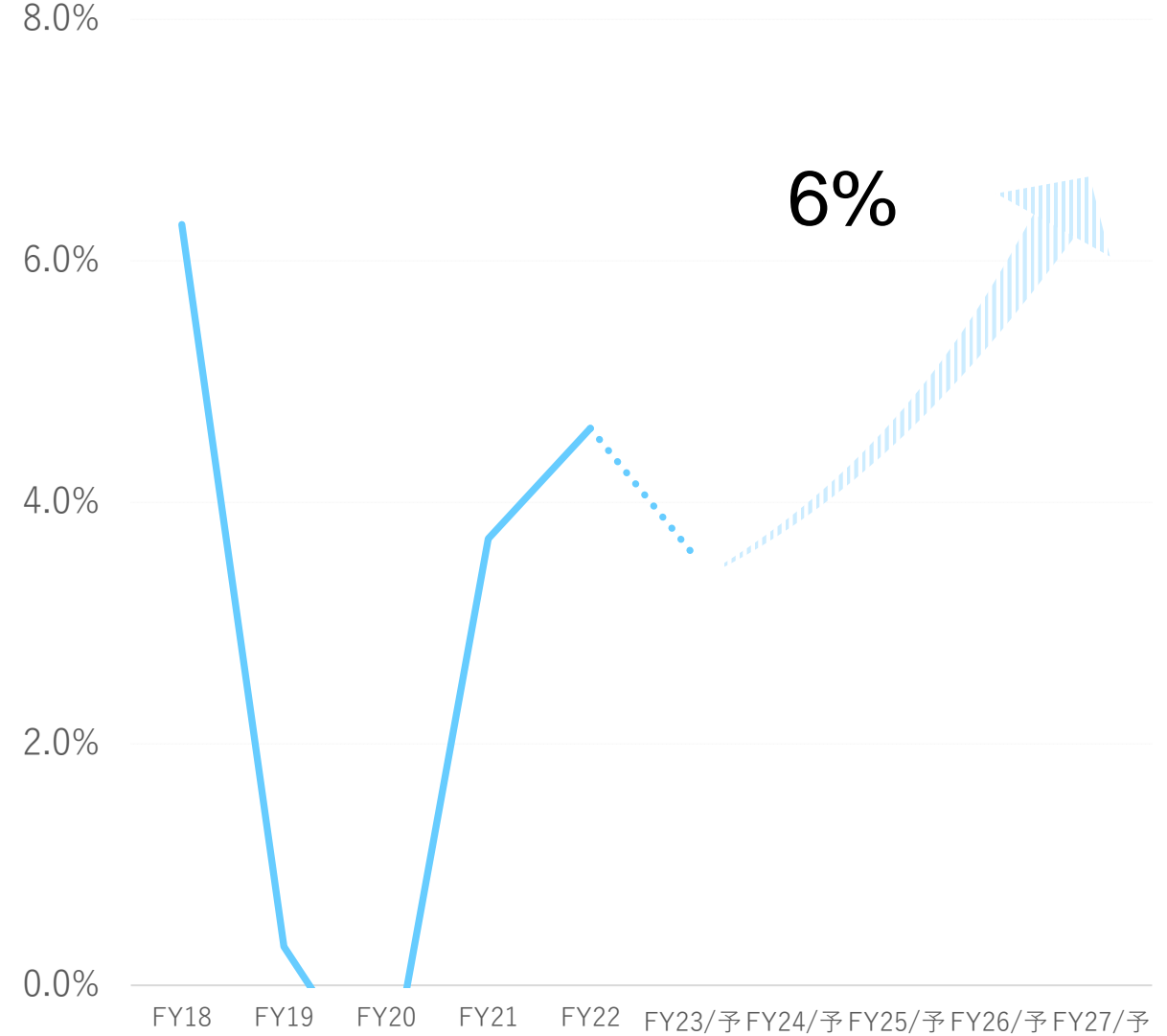
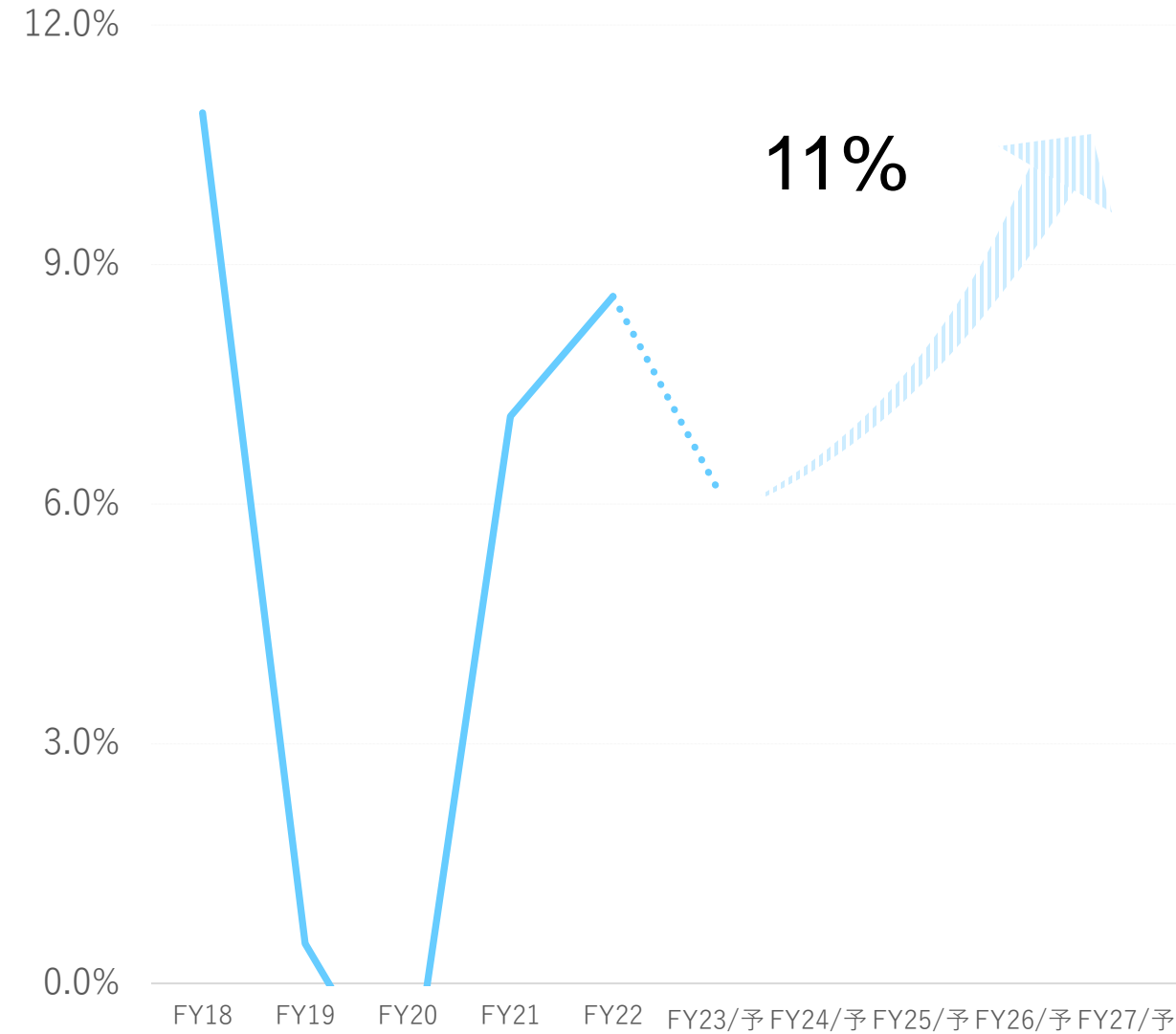


ROE・ROA



ROE

ROA





	FY2022 (実績)		FY2027 (目標)
売上高	2,280億円	>>	2,700億円
営業利益率	7.7%	>>	12.0%
ROE (自己資本 当期純利益率)	8.6%	>>	11.0%
設備投資 (5年累計)	410億円	>>	850億円
総還元性向 (5年平均)	33%	>>	35%~45%



1. 現状分析

2. 取り組みと数値目標

3. サステナビリティ



採用の多様化と育成の強化を進め、人材を「人財」へ

高度技術人財

- 設計技術者/加工技術者
- 生産工程ノウハウを持つ人財
- ソフトウェアエンジニア・AIエンジニア

採用

- 学ぶ機会の提供
(ローテーション/社会人ドクター/
リスキリング等)
- 社内教育 (Makino Business
Academy) ・知見共有仕組み拡充
- キャリアパスの見える化・設計、
キャリア形成支援
- 大学・研究機関との共同研究

育成

経営管理人財

- 人財プールの充実
(中途採用含め、開発・生産・管理
・営業・調達等各機能毎のコア人財
確保)

- ミドル層の能力開発支援
- 幹部候補生の計画的な育成

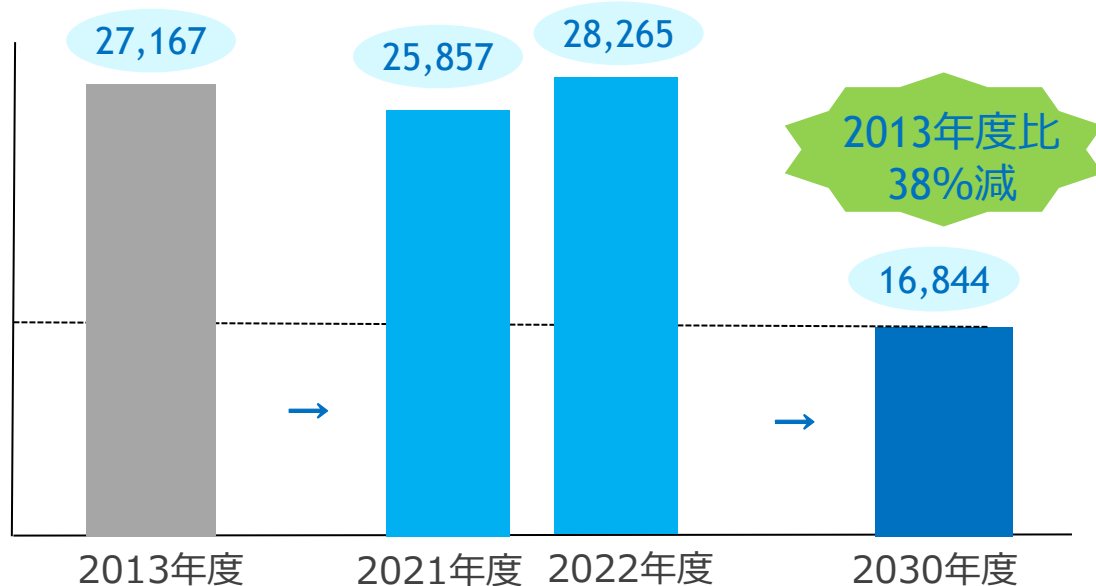
多様な人財

- 女性採用強化
- 国内の外国人採用強化
- 男女育休制度の推進
- 多様な働き方に対応

- 女性活躍推進と幹部登用
- 国内外子会社との人事交流及び
横連携による成長機会の提供

サステナビリティ（気候変動への取組み）

温室効果ガス排出量（国内連結・Scope1,2）〈単位:t-CO₂〉



※2013年度の排出量はGHGプロトコルに則り、京都メカニズムクレジット等による調整を反映しない係数(実係数)を使用して算出しております。

使用時消費電力が少ない工作機械・機能開発

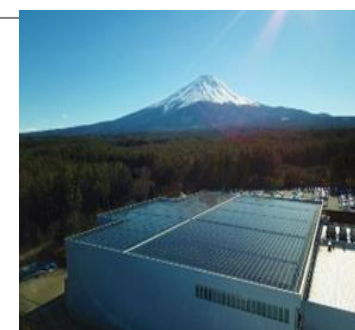
省エネルギー機能

・TSCインバータ制御、電力表示、油圧ユニット待機モード等

生産・販売拠点における太陽光パネルの設置



厚木工場



富士勝山工場



シンガポール工場



中国 昆山工場



中国 武漢工場



インド バンガロール工場

太陽光発電量（当社単体実績）
2021年度 1,939千kWh
2022年度 2,650千kWh

基本的な考え方

当社は、コーポレート・ガバナンスを、企業理念や経営の基本方針に沿って、様々なステークホルダーに配慮しながら中長期的に企業価値を向上させるための施策の一つと考えております。工作機械産業は業績の変動が極めて大きいことを踏まえ、効果的かつ効率的なコーポレート・ガバナンスの構築を目指します。

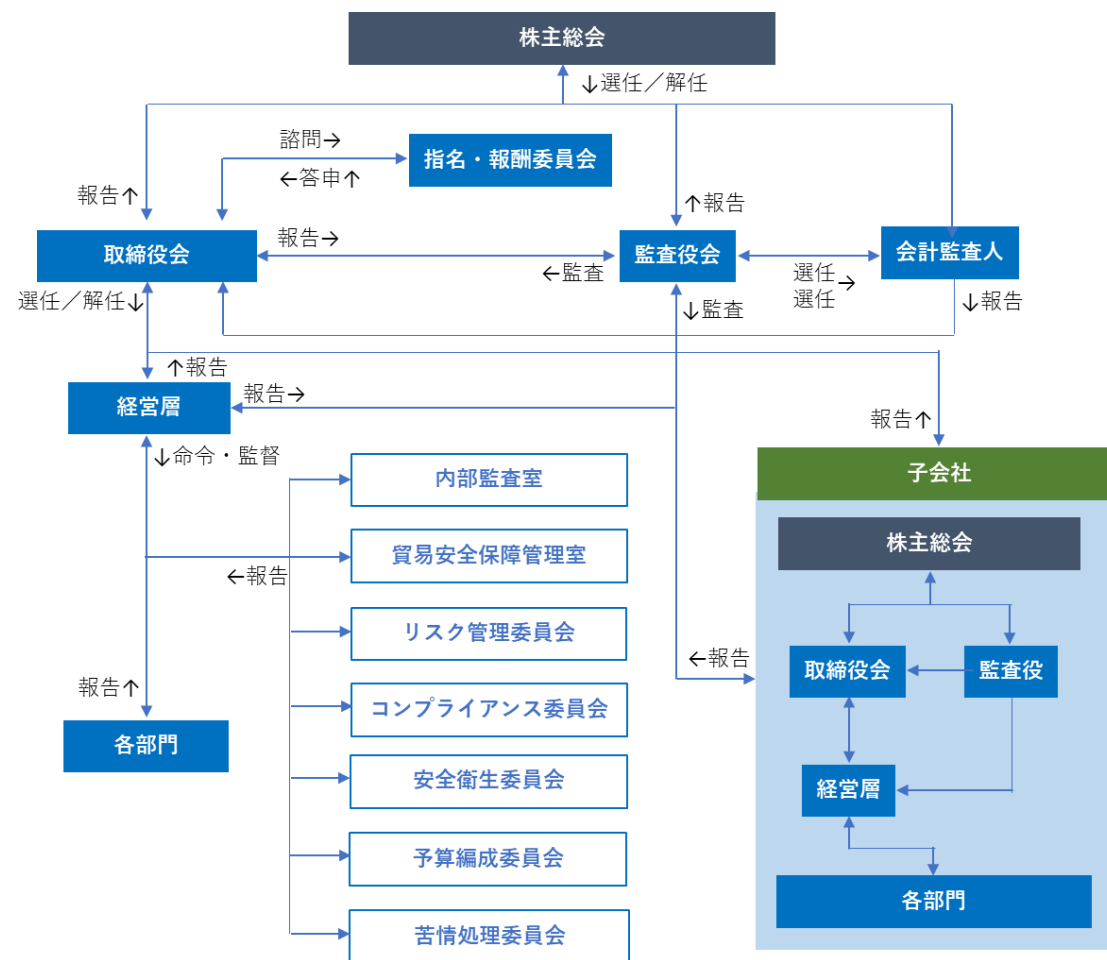
概要

組織形態	監査役会設置会社
取締役	8名（うち社外取締役4名）
監査役	3名（うち社外監査役2名）
定款上の取締役の任期	1年
取締役へのインセンティブ報酬	短期：業績連動 中長期：譲渡制限付株式報酬
任意の諮問委員会	指名・報酬委員会

スキルマトリックス

	経営	国際性	研究開発 生産	営業マー ケティング	財務・会計 金融	法務 リスク管理
1 宮崎 正太郎	代表取締役 取締役社長	●	●	●	●	
2 永野 敏之	代表取締役 専務取締役	●	●		●	●
3 饗場 達明	代表取締役 専務取締役	●	●	●		
4 白石 治幸	取締役	●	●			
5 増田 直史	取締役	●	●			●
6 山崎 広道	取締役	●			●	●
7 西野 和美	取締役	●			●	●
8 高橋 一夫	取締役	●		●	●	●
9 香村 章夫	常勤監査役	●	●	●		
10 山口 仁栄	常勤監査役	●	●		●	●
11 中島 次郎	監査役	●			●	●

現行体制図





本説明資料に記載いたしました将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績は、さまざまな要因により、記載された見通しと大きく異なる結果となる可能性があることをご了承願います。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業を取り巻く経済情勢、社会的動向、当社の提供するサービス等に対する需要動向による相対的競争力の変化等があります。なお業績に影響を与える重要な要因は、これらに限定されるものではありません。